

令和7年度 第3回 近江八幡市男女共同参画審議会 議事録

日時 令和8年2月24日（火）14：00～

場所 近江八幡市役所4階 第4委員会室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 協議事項

- ・男女共同参画おうみはちまん2030プラン-男女共同参画近江八幡市行動計画-の中間改訂版（素案）のパブリックコメント結果について

資料1 男女共同参画おうみはちまん2030プラン-男女共同参画近江八幡市行動計画-（素案）にかかるパブリックコメント（意見及び回答案）

資料2 男女共同参画おうみはちまん2030プラン-男女共同参画近江八幡市行動計画-（素案）【パブリックコメント修正反映版】

（事務局説明後、質疑応答）

会長 目標値について、達成されなかった場合についても公表等を行うのか。

事務局 次期行動計画の中で、前期行動計画（男女共同参画おうみはちまん2030プラン）評価として公表する予定である。

会長 基本目標Ⅲの評価指標「男女間の暴力に関する相談先をひとつも知らない人の割合」の目標値について、0%から5%に変更するのであれば、一定根拠が必要となる。

事務局 市民意識調査結果の推移や、滋賀県の男女共同参画行動計画（パートナーしがプラン）等を踏まえて、より現実的な目標値となるよう5%に修正したい。

会長 同じ基本目標Ⅲの評価指標「デートDV（用語）の認知度」についても、目標値は70%となっているが、基準値35.2%、現状値17.4%を踏まえると、やや高すぎる目標に思われる。デートDVという用語については、若年層は当事者意識を持って関心が高くても、年齢層が上がるほど当事者意識が薄れ関心が低くなると考えられる。

事務局 令和6年度市民意識調査で男女共同参画用語の認知度の質問について、回答方式を前回市民意識調査から変更したことが結果に多少影響していると考えられる。また、調査対象は無作為抽出であり、若年層よりも高齢者の回答者が多かった。

市民意識調査結果の推移や、滋賀県の令和6年度男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査結果等を踏まえて、より現実的な目標値となるよう検討する。

会長 パブリックコメントの2人目の意見に対する市の見解について、冒頭のバックラッシュの説明が限定的過ぎるように感じる。分野によってバックラッシュの定義は異なり、また、ジェンダー分野におけるバックラッシュについても時代や地域によって内容が異なってくる。

事務局 見解の冒頭部分と、用語解説の後半部分を削除する。
委員 ヘルスリテラシーやレスパイトケアの文言の追加提案はとても良い意見だと思う。市民意識調査結果を見ると、まだまだ家庭内における男女の地位が平等だと感じている人は少ない。介護は女性が担うものという意識は未だ根強く、家庭内の男女平等を実現するためにもレスパイトケアは必要である。

委員 民間企業では介護休暇・休業の取得を支援することはできても、直接介護の支援をすることはできない。介護休暇・休業にも日数制限がある。介護離職を防ぐためにも、介護をしながら働き続けられる環境づくりが必要となる。

事務局 関係課と調整のうえ、文言を盛り込んでいきたい。
委員 認定された要介護度によって介護保険の枠組みで介護施設を使える点数は異なる。介護者の負担感も被介護者の要介護度によって異なるが、とても苦勞されており、レスパイトケアの必要性を感じている。しかし、介護保険の制度上、介護施設の利用は誰でもできるわけではない。

事務局 第9期近江八幡市総合介護計画では今後の方向性として「介護者の緊急時の対応やレスパイトは必要不可欠であり、必要なサービス量の確保を図ります。」としている。

委員 基本目標Ⅳ重要課題1 施策の方向③「介護負担を軽減する支援」だけを見ると、介護支援と男女共同参画のつながりが見えづらい。

事務局 施策の方向説明の冒頭に「性別に関わらず～」の文言を追加する。
委員 市民意識調査の結果や行動計画の内容を知りたい人はもっといると思う。自身も市民意識調査結果の各分野における男女の平等感の結果等を見ていると衝撃を受けた。現状、能動的に情報を取りにいかなければ市民意識調査結果を知ることができない。もっと広報やSNS等を活用してこまめに周知してほしい。

委員 評価指標について、自分としてはイベント等の参加者数の実績より市民意識調査結果の方に重みを感じる。

委員 市民意識調査の結果が目標値とは真逆の方向に動いた時の受け止め方は。意図しない結果になってしまったとき、企業ではどのように受け止めているか。

委員 自身の場合は現実として受け止めている。良かれと思って企画したセミナーでも、いざやってみると微妙な反応が返ってくることもある。原因を知って改善に取り組んでいくことが大切だと考える。

会長 市民意識調査やアンケートでは、回答を選択式にすると、回答者に独自の意見

があったとしても選択肢の範囲内でしか回答してもらえない。自由記述欄を多く設けておくことが重要。

- 委員 質問の作り方によっては、回答を誘導してしまうこともあるため注意が必要。
- 事務局 P57の「個体差」を「個人差」に修正したいと考えているが、問題ないか。
- 会長 「性差でなく個人差」というフレーズは研究者の間でもよく聞く。問題ないと思う。
- 事務局 「個人差」で修正する。

4. その他

- ・ 広報2月号表紙写真に対するご意見の紹介